

毎月第2・4土曜日

四天王寺きたやま苑(ボランティア3名)

社会福祉法人育徳園(ボランティア5名

・移動支援従事者(ヘルパー)養成研修(知的課程)
(新規実施)受講生 15名

○地域活動及び交流活動

・部会活動

ア) 学齢期部会 15回 延289名

(施設見学・講演会)

イ) 就労部会 6回 延114名

(学習会・事業所見学・レクリエーション等)

ウ) 地域生活支援部会 11回 延244名(権利擁護に関する講演会・親子レクリエーション等開催)

エ) 地域活動・就労支援事業所連絡協議会 11回 延281人(月1回の事業所の連絡会、作業所職員研修会・交流会、アミティ舞洲運動会。)

○組織の強化

44支部 会員数約900名:支部連絡会・各種会議等を通じて、会員の意識高揚と意思の疎通、連帯感及び親睦の強化を図った。

ア) 支部連絡会 年12回

イ) 月例役員会 年12回

≪東成育成園≫

支援内容としては、個別支援計画の質の向上にも取り組みました。利用者一人ひとりに応じたプログラムの提供を行うためには、個別支援計画は大切であり、ニーズの把握とニーズを支援に組み立てる能力が職員には求められます。本人・保護者との話し合いの中で、支援計画を立てていますが、その計画作成の素になる本人とのコミュニケーションや本人のことをわかってもらう職員の姿勢に「充分」というものはなく、引き続き、職員間で共通理解や情報交換に努め、本人のよりよい暮らしにつながる支援の質を求めていきたいと考えています。

日中活動については前年度と大きく変わることなく、作業を中心に、毎月の行事や社会資源を積極的に利用しながら経験を積み、「好きなこと・嫌いなこと」「できること・できないこと」を自分自身が知る機会になるよう支援を行いました。(株)NTTコミュニケーションズのCSRの取り組みに参加し企業の中でクッキー・マドレーヌの販売活動を行ったり、5月の運動会では披露した応援のチアダンスが好評で、チアダンスチームとして11月の「大阪市育成会大会」、2月の「バレンタインコンサート」、3月には

「虹のコンサート」にも出演させていただくなど、活動の幅を広げました。販売もステージ出演も、回数を重ねる度に、次は前回よりも、「より良く」という気持ちが湧き、利用者にとって、自信のもてる貴重な経験になったと思います。また、宿泊体験は、今年度は、近くに借りた民家を利用して行いました。街の借家のため、バリアフリーには程遠く、建物としての課題は多いものの園の近くに、みんなが集い、語り、時には泊ることのできる場所があることの意味は、大きいと感じています。まだまだ、十分に活用できているという状況ではありませんが、「施設」というと敷居が高いと感じておられる方にも利用していただき、より地域の社会資源としての「東成育成園」でありたいと思っています。

≪港育成園≫

利用者一人ひとりに関わる支援については、個別支援計画の具体化に取り組み、利用者一人ひとりの特性に応じた計画の作成を目指しました。

具体的な支援の内容は作業活動を主にしつつ少数で行うグループ活動・一泊旅行・作業参観・忘年会・慰労会等を実施しました。

保護者に対し、作業参観を実施し、参加していただいた保護者の方から「家庭では見る事のない子供の様子が見られてよかった」など好評でした。

また、「お話の会」や「食の学習会」は、小グループで本人の思いを周りの人に伝えることや、食べることを通して自分の健康や生活を考えることを目的に行いました。自分の気持ちを話したり、健康や生活を考えることで、少しずつですが人との関係がうまくとれるようになる、人の話を聞こうとする、自分から体を動かそうとするなどの変化が見られるようになってきました。

地域との交流も昨年同様に積極的に行い、地域の中学校の職場体験実習などの取り組みにも協力をし、区民まつりにも声をかけていただき参加させていただきました。

日中一時については、特別支援学校高等部の方に、長期の休暇の時に利用をしていただきました。また、在宅で過ごしながらも、毎日通うことが難しい方の利用も積極的に受け入れました。昨年に続き、特別支援学校高等部(会員)の方向けに「親子バーベキュー」を実施しました。参加者には限りがあったものの、おおむね好評に実施することができました。

≪港第二育成園≫

当園の取り組みの中核をなす『作業学習』について